



Igroup

communication

Special **04**
2022年1月31日発行

一人ひとりの一隅を
照らし続ける。



【特集】

心理専門職の国会議員の
必要性について

臨床心理士 高原あきこ氏

一時保護専用施設の
運営の開始について



心理専門職として責任ある立場で、 日本の皆様の「心の支援」に 携わり、真の意味での居場所作り・ 生きやすい社会づくりを 目指して参ります。

臨床心理士 高原 あきこ 氏

読者の皆様、はじめまして。私は高原あきこと申します。この度ご縁をいただき、光栄にも寄稿することになりました。

私は臨床心理士という立場で、発達障害や知的障害、その他様々な障害がある人達の支援や、生きづらさを感じている子供やその保護者のサポートをしてきました。そして、多くの出会いから学んだことを、大学や福祉の現場で教員になる学生や現職の支援員の方たちに伝えてきました。

もともと約 30 年前、福岡県にある社会福祉法人設立時にその施設の副園長として福祉事業に携わって参りました。その後約 25 年、北九州大学・長崎大学・熊本大学で教鞭をとった後、3 年前からまた福祉の現場に戻り、現在は知的障害や発達障害がある利用者の心理支援に関わっております。

一方で、私は 11 年前の東日本大震災の時、宮城県で被災した障害児・者やその家族の心の支援のため現地に出向いたことがきっかけで、障害がある人達をはじめとした社会的弱者の福祉の充実や真の意味での安全・安心な社会づくりを行う国会議員になるとの志を立て、国政挑戦に向けて活動して参りました。

その過程で、なんと心の支援を専門にする、いわゆる心理専門職の国会議員は与野党共に一人もいないことがわかりました。縁があって 40 年近く、福祉や特別支援教育・臨床心理支援の世界で障害がある人達やそのご家族と共に生きてきた私は、今この時代こそ心理専門職の専門性を生かした上で、「誰も切り捨てられることのない社会を目指し、人の心がわかる政治家」が必要だと思っています。

そこで、まさに0から活動を始め、心理専門職の国会議員の必要性を解き、賛同してくださる方を訪ね、ご理解とご支援をお願いして参りました。

2 年程前、幸いにも貴法人の國分健作代表とお目にかかることが出来、志に共感いただいたことはとても心強いことでした。また、國分代表のお話を聴いていくうちに貴法人の行っておられる事業はまさにこれからますます日本で必要性が叫ばれる、しかしながら法律のはざまにあってまだ十分に支援が届けられない大事な領域であるとの認識を強くなりました。

私の進む道も困難ばかりではありますが、お陰様で昨年末の 12 月 22 日、自民党より次期参院選全国比例区公認をいただくことが出来ました。これもひとえにご支援・ご理解の賜物と深く感謝申し上げます。

つきましては、全ての人が安心・安全に暮らしていける日本の国づくりのため、また日本の良いところを子や孫に残していくために、必勝目指して精進いたします。

心理専門職として責任ある立場で、日本の皆様の「心の支援」に携わり、真の意味での居場所作り・生きやすい社会づくりを目指して参ります。

さらに、対外的な防衛問題や自然災害、疫病のパンデミック等、緊急事態における対応・対策を常に考え国民の皆様のお役に立つ仕事をして参ります。

若輩ではございますが、文字通り人生の全てをかけて国政で皆様のために働きます。

最後になりましたが、コロナ禍による異常事態が一日も早く収束することを願い、また皆様のご多幸をお祈りしております。今後ともご指導のほど、よろしく願い申し上げます。

■ 第6期 経営指針書について

当法人は毎年年末頃、次年度の経営指針書を作成して、社内に周知しています。
(この法人がどこを目指しているのか、何に取り組んでいるのか等を記載したもの)

当法人の目的は、福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県における救済支援が必要な方に対して、事業内容に記載されている運営に関する事業を行い、広く対象者の雇用の創造と確保、福祉の増進等に寄与することを目的としています。

その目的を果たす為に、医療・介護・障がい・保育などの医療福祉を20年弱経験した代表が活動方針を示し、各部門で取り組んでいます。

自立援助ホーム（児童自立生活援助事業）を始めて、歴史を学び・経験者から教わりながら日々の支援に取り組んできました。利用者職員はすごいと気づくことが増えました。

私も知らなかった共同生活の世界で、メジャーではない仕事内容に携わり、日々のできごとや感情の浮き沈み、家出や口論、人間関係の不満や恋愛相談など、職員が耳を傾け利用者の声を聴きながら長一い目で振り返ると成長を感じる。こんな正解のない役割を担っていただける職員の皆様には、苦労を想像するだけで頭の下がる想いです。

利用者も環境を変えて、知らない大人と入居者との関係、SNS などで社会からのストレスを感じながら、望んでいない就労や一人暮らしを強要され、寂しい想いを埋めるために話し相手を探し、満たされる時間を求めて過ごしているのだと思います。

その行動が、ホームのやくそくごとに違反していると注意や指導をされ、追い込まれて反発した嫌なことを言われる。きっとそんな気持ちなのだと思えます。

ひとりでも必要としてくれる利用者がいれば、ホームを続けていくことは決めています。社会に出て困った時に支えられる場所でありたいと活動しています。

これからは、目的が定まっていない利用者を受け入れる一時保護専用施設の運営。一人暮らしを目指す為の経験と準備を行う場所として自立援助ホームの運営。自立援助ホームや制度を利用できない対象者の受け皿としてステップハウスの運営。社会的養護自立支援事業と併用できるアパートタイプの自立援助ホームの運営。地域と退所者や既存施設へ相談事業を行う心理職の新たなコミュニティー拠点の運営。上記の活動を一つのカタチとして、モデルケースとなるような取り組みを行っていく考えです。毎年進化を続けて活動を行っていきたいと思いますので、今後ともご支援お願いいたします。





一時保護専用施設の運営を 福岡県・熊本県・長崎県で開始します

■ お知らせ

福岡県では、昨年9月から運営を開始いたしました。児相研セミナーで発表させていただいたこともあり、福岡県内の児童相談所には一時保護専用施設の運営として、周知が行き届き、児童相談所の職員の方にも一時保護しか受け入れができない施設として認知していただきました。その結果を受けて、熊本県で男子専用棟・女子専用棟・ステップハウス・心理職常駐施設を運営する拠点を2022年3月に開設することになりました。

共同住宅を1棟借りして複数のニーズに対応する取り組みとなります。また、北九州市でも2022年4月に開設することになりました。長崎では、既存施設を用途変更して2022年4月に運営を開始いたします。

心理士が常駐する 地域コミュニティの拠点を開始いたします

■ お知らせ

福岡県では、2022年中に春日市と北九州市でコンピテンシーという名称で活動を行います。熊本県では、一時保護専用施設の運営と併設して活動を開始します。ここでは、訪問医との連携を行い、医療ニーズにも対応できるように準備を行い、常駐する心理職が既存施設への訪問による心理面談や、退所者宅へ訪問して経過を把握する。また、拠点に尋ねてこられる方への相談支援を行いながら、地

域コミュニティとして認知し対象者の支援を行っていく考えです。虐待の連鎖を断ち切ることが容易ではありませんが、件数を緩やかにするための相談支援は有効な方法ではなかと考えています。心理職の方はこれからの時代に欠かせない存在となっていくことでしょう。同じような想いを抱いていただける方が増えることを期待しつつ活動していきます。

子どもたちの自立を
家族のように支援する、
プロフェッショナルたち。



えん

自立援助ホームえん

(年末年始)

- ・クリスマス会
- ・正月飾り
- ・年越しそば
- ・おせち
- ・お年玉

(今年は、退所者宅へ訪問して、おせちとお年玉を届けました。)

- ・初詣
- ・入学願書受取り

今年は、ドミノピザの御厚意をいただき、美味しいピザを食べることができました。



衣類の寄付や、野菜の寄付などいただくことができました。
年を重ねるごとに、気にかけてくださる方が増えて、嬉しく思っています。

年末年始は恒例となった施設長と過ごし、おせち料理を食べて初詣にいきました。

今年も利用者の居場所を提供していきます。



ラブ

自立援助ホームラブ

児童も職員も前向きに『今』そして『将来』を考えていきたいです。

秋から冬にかけて、児童にとっての楽しいイベントがたくさんありました。10月のハロウィン、12月の合同バーベキューとクリスマス、1月のお正月……児童も職員も準備期間からワクワクして、明るい気持ちで過ごすことができました。いつも児童が飾りつけの準備などを手伝ってくれます。歌をうたったり、おしゃべりに花を咲かせながら、どの顔にも笑顔がありました。職員はお菓子や御馳走を準備しながら、「児童が喜んでくれるといいな」「思い出に残る時間を過ごせたらいいな」と心から祈っていました。職員の祈りは天に通じて、イベント後に児童が「〇〇が食べれて良かった、美味しかった」「ほかの子と仲良くなれた」と報告してくれます。「次は〇〇してほしい」とリクエストもついてくるので、児童と職員とで一緒にイベントを作っているような雰囲気ができています。年末年始の仕事やアルバイトで、普段以上に忙しかった児童もいたよ



うです。1月前半は、一部の児童が体調不良で、自室で安静にして過ごしていました。イベントで気分が盛り上がった分、日常生活に戻るのに時間がかかっている児童もいました。児童にとって一年のスタートは様々でしたが、それぞれのゴールに一歩でも近づけるように(児童それぞれ、年始に新年の抱負を書いてもらっています)、職員も気持ち新たにステップアップする一年にしていこうと考えています。感染症対策で活動範囲が制限され、児童にとってはストレスを解消しづらい環境が続いています。こうした状況下ではありますが、児童も職員も前向きに『今』そして『将来』を考えていきたいです。

ラブ

村上 遥

自立援助ホームラブ 支援員

子どもたちが一人暮らしをした時に、自分が教えた何気ないひとことがふとした時に役に立てばいいなと思っています。

入職してすぐは、自分と歳の近い子どもたちとどのように接したらいいかわかりませんでした。子どもたちと接していく中で、それぞれが抱えている悩みや思いに微力ですが寄り添えるようになってきているかと思えます。みんな環境や過去が違い、不安な事もたくさんあると思います。私は、そんな子たちにも大丈夫と明るくポジティブに考えられるようになるための

声掛けを心掛けています。ラブでは、支援員をしています。みんなが帰ってきて良かった!一日頑張った良かったと思えるようなご飯作りをしています。一人暮らしをした時に、自分が教えた何気ないひとことがふとした時に役に立てばいいなと思っています。

一日頑張った良かったと思えるようなご飯作りをしています。

Profile

熊本市北区出身。現在3人の子育てをしています。子育てに仕事に大変ですが、毎日頑張っています。

庵

自立援助ホーム庵

喜びを一緒に分かち合い、辛い時には寄り添えるそんな関係性でありたいと思います。

庵では一年を通しての様々な行事を子どもたちと楽しんでいます。お正月に始まりそれぞれの誕生日やクリスマス等、特別な日として大切にしています。「誕生日には好きな食べ物をリクエストできる!」「ケーキはこれがいい!」「おせち料理が好きだから楽しみ」など子どもたちも心待ちにしています。子どもたちの期待に応えるためにスタッフも料理作りに腕をふるっています。元日には職員と初詣に行き新年を一緒に過ごしました。生活にメリハリをもって過ごしていくために今後も行事を通して子どもたちと楽しんでいきます。日々の生活では自立に向けて就労や就学を頑張っています。嫌な気持ちになって逃げだしたくなる日もあります。今日はこんなに素晴らしいことがあった!嬉しい日もあります。葛藤を抱えながらもそれぞれが一生懸命に努力をしています。社会に出るという事は楽なことばかりではありません。困難なこともたくさ



んあります。庵で生活をしていく中で苦しいとき悲しいときも、「自分だけではない」「失敗こそが今後の成長のための貴重な体験だ」「今日は辛かったけど明日はよい日になるはずだ」と前向きに考える力を一つでも多くつけてもらいたい。挑戦していくことは実はとても楽しいことだと知ってもらいたい。そのために、スタッフ一同全力でサポートしています。喜びを一緒に分かち合い、辛い時には寄り添えるそんな関係性でありたいと思います。いつか施設を出て独り立ちする時は「自信に満ち溢れた笑顔」を見届けられるよう責任をもって関わっていききたいです。

庵

大浦 光喜

自立援助ホーム庵 支援員

これから一緒に過ごしていく中で、子どもたち一人ひとりに寄り添い心の拠り所になることが私の目標です。

私は、今まで精神的な面において辛い経験をしたことがあります。当たり前のことができずに苦しんだ経験をしたことがあります。一番自分が辛いときに病院の先生や、心理士の方が自分の話を親身になって聞いて頂き、自分の心の拠り所となり救われました。こういった経験から、子どもたちが抱える悩みや様々な物事に対して心の拠り所になりたいと思い、自立支援ホーム庵に

入職しました。現在庵で暮らしている子ども達はこれからの将来のこと、対人関係の事、その他様々な悩みや思いを抱え生活していると思います。これから一緒に過ごしていく中で、子どもたち一人ひとりに寄り添い心の拠り所になることが私の目標です。

子どもたちの心の拠り所になりたいと思います。

Profile

福岡県春日市出身。これからの目標は、将来的に精神保健福祉士の資格を取りたいです。

inn

自立援助ホームinn

季節の食事や年間行事を通して、そこに込められた願いを伝える事を大切にしています。

innでは、季節の食事や年間行事を通して、そこに込められた願いを伝える事を大切にしています。かぼちゃのケーキを食べたハロウィンの行事が終わった後は、児童みんなが楽しみにしているクリスマス♡12月に入ると早速児童とクリスマスツリーの飾りつけをしました。大きな白いクリスマスツリーは、あっという間に色とりどりに飾りつけられ、点灯されたクリスマスツリーを見ながらクリスマスソングを口ずさむ声も聞かれ、innのリビングは早くもクリスマス気分一色でした。そんなある日、大きな松ぼっくりを手に入れた職員が、児童達に「ツリーを作ってみない?」と声をかけると、みんなその大きさに大仰天!!各児童、一喜一憂しながらカラーズプレーで色付けをして、星やリボンの飾りつけをして、それぞれの個性が出



たツリーが完成しました。クリスマス会当日は、ご馳走が並んだテーブルに自分達で作った松ぼっくりツリーを置き、おいしいケーキを食べた後は、お待ちかねのプレゼント贈呈の時間で!!どの児童の表情も一層キラキラと輝いていました。子供たちにとってのクリスマスは、特別な素敵な1日となり、職員としても貴重で有意義な時間を共有でき、innで過ごす楽しい思い出の1ページとなりました。

LUCK

自立援助ホームLUCK

ホーム内に心理職員が在籍していることの安心感は他の施設との違いです。

初めて迎える年末年始。開設して9カ月。ホーム内の雰囲気も穏やかになりました。それぞれが想いのままに過ごしています。高校へ入学を希望する利用者もいて、入居者全員(5人)が高校生となることを目標に入学願書の受取や提出をして準備しています。共同生活の課題はありましたが、最近は入居者が成長してきたのかラブラブはなく過ごしています。支援者が落ち着いて対応していることも一つの要因だと感じています。



ホーム内に心理職員が在籍していることの安心感は他の施設との違いです。全国自立援助ホーム協議会の実践報告会でも、当ホームの心理職員が実践報告をする機会をいただきました。法人内でも研修を担当するなど、次年度の研修計画も検討中です。春の入学を楽しみに支援を行っています。

inn

長谷川 美帆

自立援助ホームinn

指導員

児童ができないこと全てを代わりにやってあげるのではなく、ヒントを与え、一緒に経験を積みながら学んでいくことなのではないかと考えます。

私は、今までの教員生活を生かした支援していきたいと思い、入職しました。児童との関りで心掛けていることは、いつも明るく元気に児童と接することです。自立援助の分野で働くのは初めてですので、職員のみなさんに教わりながら児童一人一人に合った対応ができるようになりたいです。そのために必要なこととしては、児童との信頼関係をつくることだと思うので、何気ない会話から抱えている悩みまで幅広く傾聴していきます。

そして、職員間でもコミュニケーションを取り、信頼し合える関係になっていけたらと思っています。私の考える支援とは、児童ができないこと全てを代わりにやってあげるのではなく、ヒントを与え、一緒に経験を積みながら学んでいくことなのではないかと考えます。退居時には、一般常識を理解し、尚且つ自分の意志を持ち、社会や地域の輪の中で他者と協働していける人間になってほしいです。

児童一人一人の個性を尊重し、日々の生活の中に安心感を与えられる仕事をしていきたいです。

Profile

長崎県出身。大学卒業後、中学校教員として勤務。現在に至る。

テンポラリー

テンポラリー

テンポラリーは、就学なのか?就労なのか?何の目的も、目標も定まっていな方が利用できる施設です。

テンポラリーは一時保護専用として運営を開始いたしました。全国児相研セミナーにて、活動内容をお知らせする機会もいただいたことで福岡県管轄の児童相談所の関係者には、一時保護専用として周知することができました。実際の相談ケースも一時保護をお受けしています。当法人でも初めての取り組みですが、既存の自立援助ホームとのあり方の違いがあり、利用者が穏やかに過ごすことができている。相部屋に対する不満などはありますが、自立援助ホームほどの大きな問題にはなっていません。就学をしている利用者は、学校へ通えることは児童相談所の一時保護所との違いです。就労については、就労体験やスポットの仕事や短時間のアルバイトなどを行っています。自立援助ホームと何が違うのか?と疑問も持たれる方もいますが、利用者を見ていて違いは明らかです。自立援助ホームへ異動を検討したいと考えている子もいれば、住み込みの職場を見つけて退所することを目標としている子もいます。しかし大半の利用者は、就学を再開したい。ま



たは高校を卒業して、大学へ行きたいなど就学意欲が出てくるようです。就学メインの自立援助ホーム?と捉える方もいるかもしれませんね。テンポラリーは、就学なのか?就労なのか?何の目的も、目標も定まっていな方が利用できる施設です。利用しながら自分を見つめなおして、方向を定めていけば良いのです。これからの取り組みの結果を今後もお知らせしていきたいと思います。